

# めぐみイエス・キリスト教会

2023年6月4日(日)第一主日礼拝

午前10時より

週報「通算第660号」



## 2023年標題聖句

### 第 I ヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌337「愛する主よわが君よ」	p. 676
【交読文】	No.31 詩篇第100篇	p. 904
【賛美Ⅱ】	新聖歌233「驚くばかりの」	p. 668
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.1「ビジョン」	
【聖書朗読】	使徒の働き26章24節～32節(新約p. 292)	
【礼拝説教】	《み言葉の力とは?》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」	p. 236
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

### ※本日の聖書箇所(使徒の働き26章24節～32節)

26:24 パウロがこのように弁明していると、フェストゥスが大声で言った。「パウロよ、おまえは頭がおかしくなっている。博学がおまえを狂わせている。」

26:25 パウロは言った。「フェストゥス閣下、私は頭がおかしくはありません。私は、真実で理にかなったことばを話しています。」

26:26 王様はこれらのことをよくご存じですので、その王様に対して私は率直に申し上げているのです。このことは片隅で起こった出来事ではありませんから、そのうちの一つでも、王様がお気づきにならなかったことはない、と確信しています。

26:27 アグリッパ王よ、王様は預言者たちを信じておられますか。信じておられることと思います。」

26:28 するとアグリッパはパウロに、「おまえは、わずかな時間で私を説き伏せて、キリスト者にしようとしている」と言った。

26:29 しかし、パウロはこう答えた。「わずかな時間であろうと長い時間であろうと、私が神に願っているのは、あなたばかりでなく今日私の話を聞いておられる方々が、この鎖は別として、みな私のようになってくださることです。」

26:30 王と総督とベルニケ、および同席の人々は立ち上がった。

26:31 彼らは退場してから話し合った。「あの人は、死や投獄に値することは何もしていない。」

26:32 また、アグリッパはフェストゥスに、「あの人は、もしカエサルに上訴していなかったら、釈放してもらえたであろうに」と言った。

### ●ポイント1.「主イエス様の約束」とは？

#### ※マタイの福音書10章18節～20節「十二使徒への言葉」(新約p.18下段)

10:18 また、あなたがたは、私のために総督たちや王たちの前に連れて行かれ、彼らと異邦人に証しをすることになります。

10:19 人々があなたがたを引き渡したとき、何をどう話そうかと心配しなくてもよいのです。話すことは、そのとき与えられるからです。

10:20 話すのはあなたがたではなく、あなたがたのうちにあって話される、あなたがたの父の御霊です。」

### ●ポイント2.「神の言葉」の力とは？

#### ※へブル人への手紙4章12節「生きている神の言葉」(新約p.441下段)

4:12 神の言葉は生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。

### ●ポイント3.「神の選びの法則」とは？

#### ※第Iコリント人1章26節～28節「パウロの確信から」(新約p.327下段)

## ◎先週の礼拝メッセージ【助け主・聖霊と言う神とは？】

《今日は、ペンテコステ、聖霊降臨日です。主イエス様は、最後の晩餐において、「もう一人の助け主」を送られることを約束なされました。

「助け主」と言う言葉は、「アロス・パラクレートス」と言うギリシヤ語が使われています。この言葉は、「援助の為に呼ばれた者。取りなしをする者。そして、全く同じ者」という意味を含んでいます。つまり、主イエス様と全く同じような「助け主」を送って下さると言うことです。

また、このお方は「真理の御霊」であり、弟子たちをすべての真理に導き、これから起こることを伝えてくださるとも言われたのです。

さて、主イエス様は、オリーブ山から昇天される前に、十一使徒たちに約束されました。

「エルサレムを離れないで、私から聞いた父の約束を待ちなさい。あなたがたは間もなく、聖霊によるバプテスマを授けられるからです。聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、私の証人となります。」と。

これこそが、聖霊降臨の約束であり預言なのです。そして、その通りに、「過越の祭」から五十日目の五旬節に、聖霊様は降られました。これは、今から二千年ほど前の出来事になります。

そして、『「この方はあなたがたと共におられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。」』とも、主は約束されました。すなわち、弟子たちと共に、そして私たちと共にいて下さり、私たちの中に住んで下さるのです。聖霊様は、まだこの地上に留まっておられます。しかし、やがて、このお方が天に戻られる時が来ます。それは、花婿である主イエス様が、花嫁である教会を迎えに来られる時です。栄光ある携挙の時です。その時まで、私たちは、助け主と共に、残された地上での生涯を、主の証人として、歩んで行くのです。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は、6月11日(日)午前10時からです。